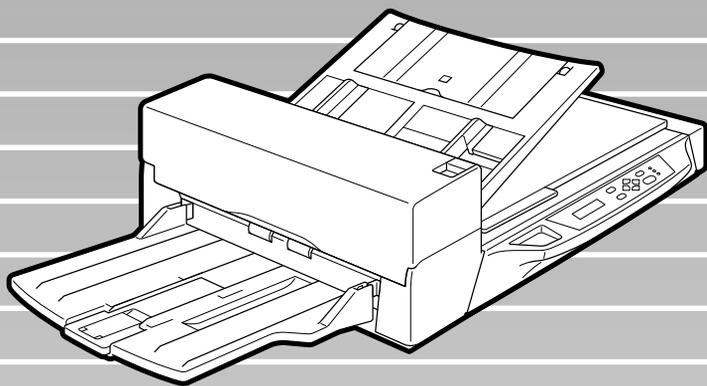




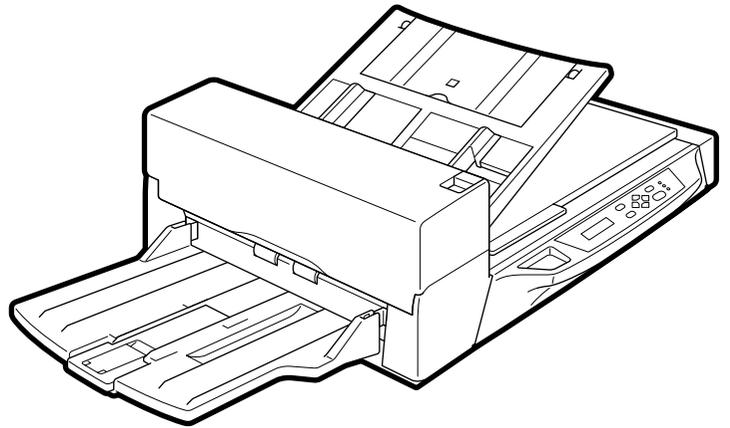
C150-E174-01

fi-4750N イメージスキャナ オペレータガイド



FUJITSU

fi-4750N
イメージスキャナ
オペレータガイド



版数	発行日	改訂内容
01	2000年8月	初版
マニュアルコード: C150-E174-01		

VCCI 適合基準について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としておりますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取り扱い説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

お願い

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

As an ENERGYSTAR® Partner, Fujitsu Limited has determined that this scanner meets ENERGYSTAR® guidelines for energy efficiency. ENERGYSTAR® is a U. S. registered mark.

製品を安全に使用していただくために

■ 本書の取扱いについて

本書には、お買い上げいただいた製品を安全に正しく使用するための重要なことがらが記載されています。本製品を使用する前に本書をよくお読みください。

特に、本書に記載されている『安全上のご注意』は、必ずお読みいただき、内容をよく理解したうえで製品をご使用してください。

本書は、お読みになった後も製品の使用中いつでも参照できるように、大切に保管してください。当社は、お客様の生命、身体や財産に被害をおよぼすことなく、安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本製品を使用する際は、本書の説明に従ってください。

はじめに

このたびは、fi-4750Nイメージスキャナ装置をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本スキャナの機能を十分発揮させるために、本書に従って正しくご使用ください。このマニュアルは、fi-4750Nイメージスキャナの使い方について説明しています。

このマニュアルは、「構成部品」、「設置のしかたと接続のしかた」、「操作のしかた」、「ADF用原稿の指定」、「スキャナの仕様」、「消耗品のオプション」、「セットアップモード」の各章から構成されています。巻末には索引があります。

fi-4750Nの日常の操作については、CD-ROM「清掃と保守のガイド」を参照してください。

CD-ROM「清掃と保守のガイド」には、「操作のしかた」、「清掃のしかた」、「部品の交換」、「異常時の処置」があります。

fi-4750Nは高速、多機能のイメージスキャナで、CCD（電荷結合デバイス）イメージセンサーを採用して、大容量のファイリングを可能にしました。本装置は両面読み取り、高品質な画像をオートマチックドキュメントフィーダ（ADF）で処理することができます。

■ 本文中の略語について

警告／注意の表示マークについて

本書では、製品を安全にかつ正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するために、次のような表示をしています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみが想定される内容を示しています。



絵記号の意味

三角で示した記号は、警告、注意を促す事項であることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容を表す絵が描かれています。



丸に斜線で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容を表す絵が描かれている場合もます。



白抜き丸で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容を表す絵が描かれている場合もあります。

■ 複製についてのご注意

紙幣、貨幣、政府発行の有価証券およびパスポート、公共団体や民間団体発行の免許証、許可書、公文書、私文書などの複製は違法となります。処罰の対象となりますので、ご注意ください。

■ 著作権に関するご注意

読取った原稿（書籍、絵画、版画、地図、図面など）は、創作、権利者の著作権法にかかるため、個人用途以外には、権利者の許可なしに使用できません。

■ その他の表示マークについて

本書では、説明する内容により、以下の記号を使用しています。



注

本装置を使う際の使い方のヒント、便利な機能、参考にしていただきたい内容について説明しています。必要に応じてお読みください。

安全上のご注意

■ 警告事項一覧



本マニュアル中に記載されている重要な警告事項は以下のとおりです。



分解禁止

設置時

火災・感電

装置を分解したり、改造したりしないでください。内部に高電圧部分があります。



感電注意

感電

オプション機器の取付けや取外しを行う場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに、手順に従って行ってください。



設置・移転

スキャナのどの部分も机から突き出さないように置いてください。装置を動かしたり移転するときは、決して一人で行わないでください。また、装置は底部の水平な部分を保持してください。



接続時

火災・感電

この装置はアース接続を必要としています。電源ケーブルは必ず3ピンのコンセントに接続してください。アース接続ができない場合は、販売会社（または保守サービスセンタ）にご相談ください。



感電注意

火災・感電

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、たこ足配線をしないでください。



感電注意

感電

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。



火災

電源プラグの金属部、および金属部の取付け面にホコリが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。



一般的禁止

火災・感電

重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。



一般的禁止

火災・感電

電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。

操作時



火災・感電

万一、機器から発熱や煙、異臭や音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに機器本体の電源スイッチを切り、その後、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

煙が消えるのを確認して、販売会社（または保守サービスセンタ）にご連絡ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。



一般的禁止

火災・感電

開口部（通風口など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。



一般的禁止

火災・感電

機器を落としたり、カバーなどを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、販売会社（または保守サービスセンタ）にご連絡ください。

■ 注意事項一覧



注意

本マニュアル中に記載されている注意事項は以下のとおりです。

設置時



一般的禁止

転倒・落下

装置を不安定な場所に置かないでください。振動の少ない、装置が傾かないような平らな場所に置いてください。



一般的禁止

火災・感電

直射日光の当たる所や暖房機の近く、湿気、ホコリの多い所には置かないでください。また、通気性、換気性の良い場所で使用してください。



一般的禁止

火災

装置の内部が高温になるため、通気口をふさがないでください。



一般的禁止

転倒・落下

装置の上に重いものを置いたり、装置の上で作業したりしないでください。



火災・感電・転倒・落下

機器を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。



一般的禁止

誤動作

強い磁界やノイズ発生源から離して設置してください。また、静電気を避けてください。静電気を発生させますと、誤動作の原因になります。床材や設置する机には静電気を発生させない材質のものを選んでください。

接続時



火災・故障

電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込んでください。



一般的禁止

火災・感電

電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグ部分を持ってコンセントから抜いてください。



感電注意

火災

複写機やシュレッダのような消費電力の大きい機器と同じコンセントから、電源をとらないでください。



一般的禁止

操作時

火災・故障

コーヒーなどの液体やクリップなどの金属片が装置内部に入らないように気をつけてください。



一般的禁止

火災・感電

本体に水をかけたり、濡らしたりしないでください。



一般的禁止

火災・感電

異物（水、金属片、液体など）が機器の内部に入った場合は、ただちに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、販売会社（または保守サービスセンター）にご連絡ください。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



回転物注意

巻き込み

歯車やローラなどの可動部に衣服の袖やネクタイ、髪を巻き込まれないようにしてください。



火災・感電

長期間機器を使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



破損

近くで雷が発生したときは、電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。入れたままにしておくと、機器が破損することがあります。

目次

第1章 構成部品	
構成部品のチェック	1-1
ユニットと取り外し可能部品	1-2
操作パネル	1-5
I/Fパネル	1-7
第2章 設置のしかたと接続のしかた	
事前のご注意	2-1
検査	2-4
輸送金具の付け替え	2-6
ケーブルの接続	2-7
スタッカの取り付け	2-9
第3章 操作のしかた	
事前のご注意	3-1
電源の投入	3-3
スキャナの低電力モードからの起動	3-4
ADFへの原稿のセット	3-5
フラットベッドへの原稿のセット	3-10
フラットベッドより大きい原稿のセット	3-11
厚い本の読み取り	3-12
第4章 ADF用原稿の指定	
原稿のサイズ	4-1
原稿の紙質	4-2
ADFにセットできる原稿の枚数	4-4
穴をあけてはいけない領域	4-5
背景色の領域の制限	4-6
ダブルフィードの検出条件	4-7
第5章 スキャナの仕様	
装置基本仕様	5-1
設置仕様	5-2
外形寸法	5-3
第6章 消耗品	
消耗品（サプライ品）	6-1
索引	IN-1

1 構成部品

構成部品

2 設置のしかたと接続のしかた

設置のしかたと
接続のしかた

3 操作のしかた

操作のしかた

4 ADF用原稿の指定

ADF用の原稿の
指定

5 スキャナの仕様

スキャナの仕様

6 消耗品

消耗品

1

構成部品

スキャナを開梱したら、すべての構成部品が入っているかを確認します。この章では、スキャナの構成部品、部品名と機能、操作パネルの配列と機能およびLCDに表示される基本的なメッセージについて説明します。

構成部品のチェック

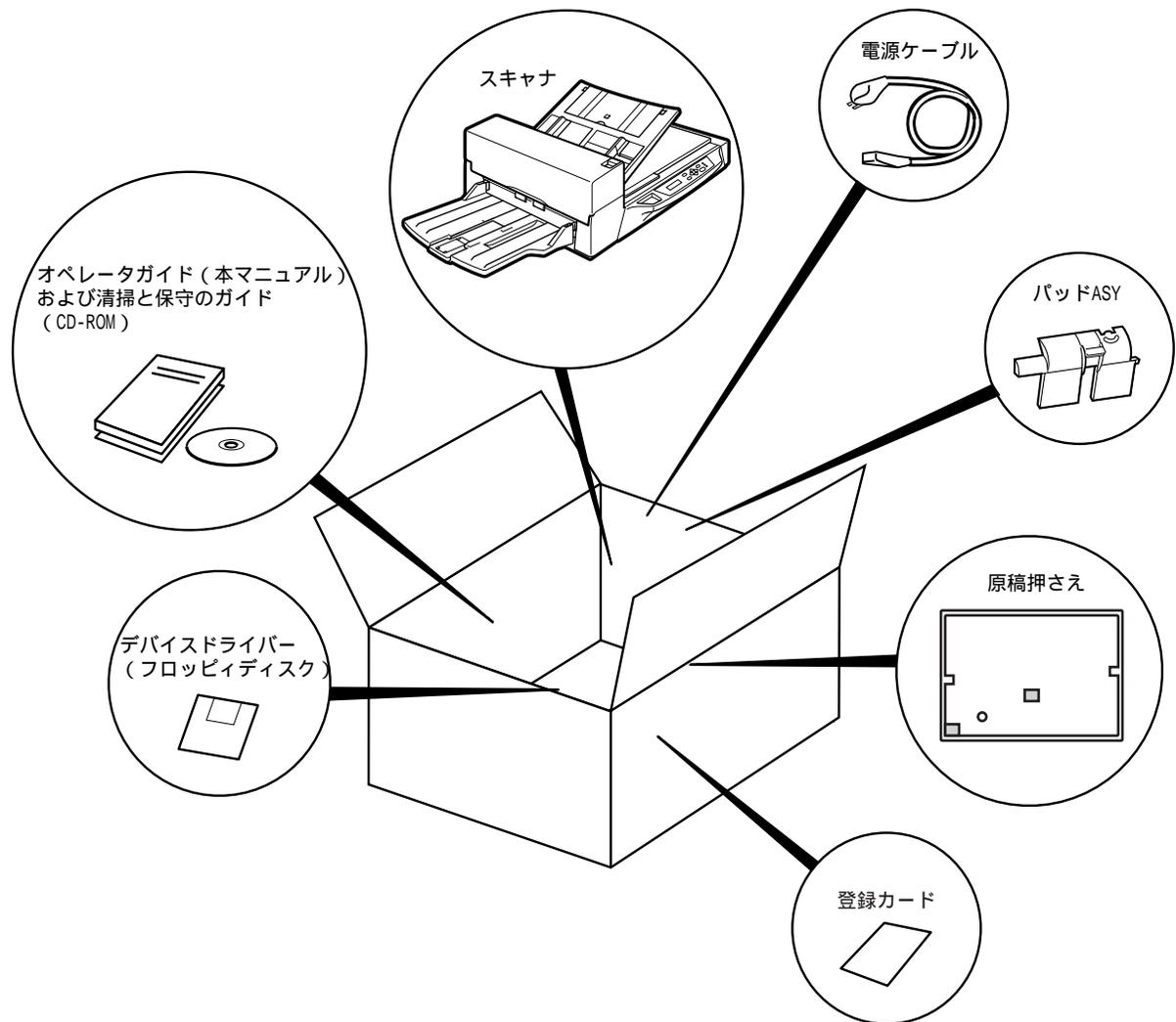
ユニットと取外し可能部品

操作パネル

I/Fパネル

構成部品のチェック

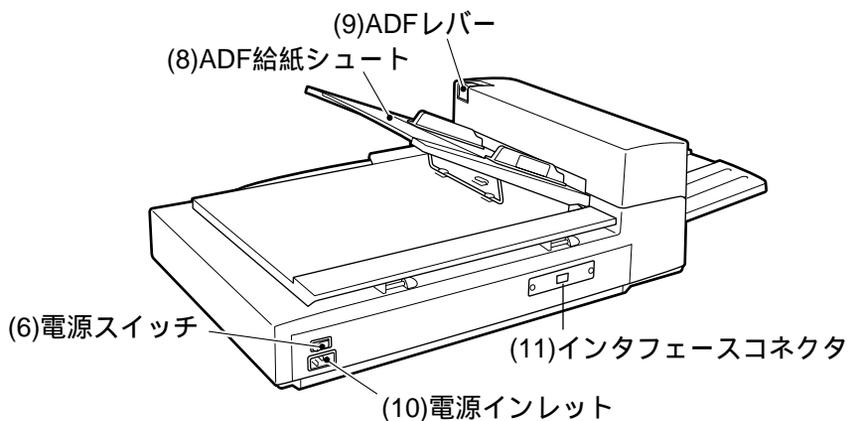
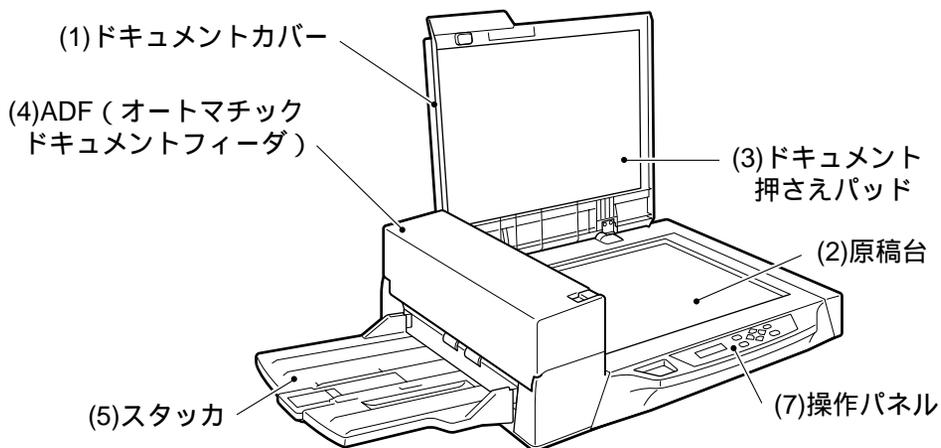
本装置の構成部品は高精度ですので、十分注意して扱ってください。
以下の図に示すすべての構成部品があることを確認します。
見つからない構成部品があれば、販売代理店にご連絡ください。



ユニットと取り外し可能部品

ここでは、スキャナの外形図と組立品を示します。各部品の名前とそれらの機能についても説明します。

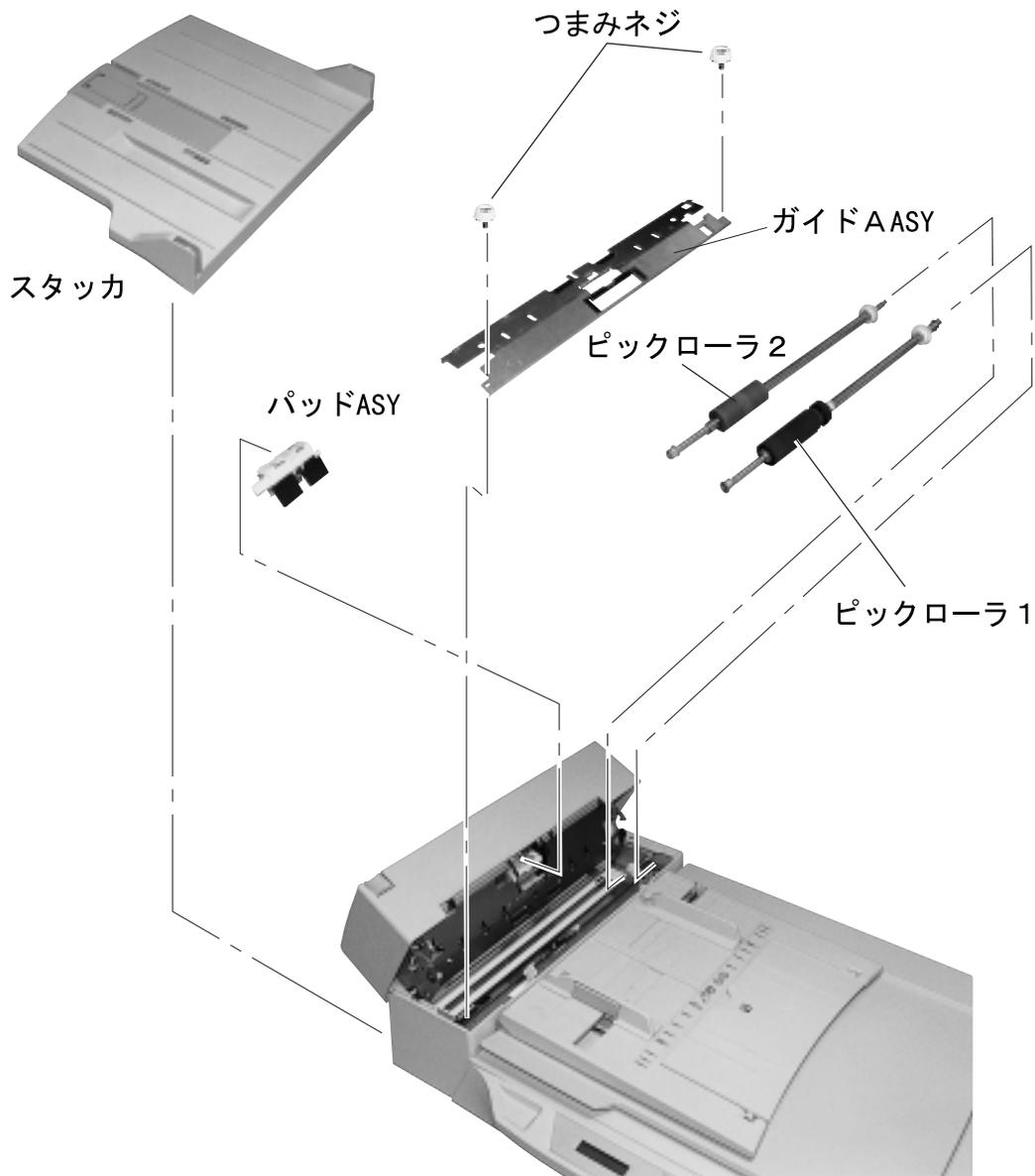
■ ユニット



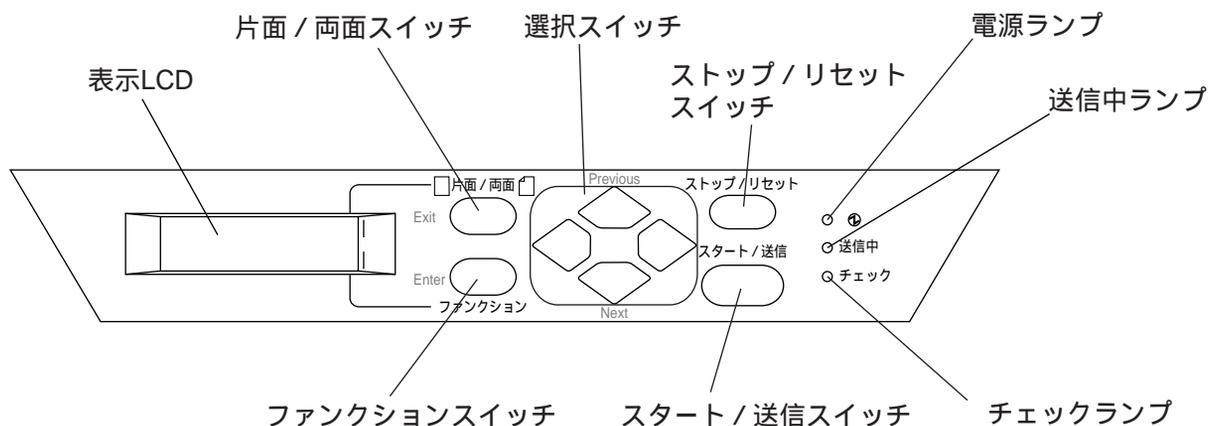
注
輸送金具は必ず動作位置に切り替えてください。切り替えないと、スキャナは使えません。金具については、2-6ページを参照してください。

No.	名称	機能
1	ドキュメントカバー	閉めると、読み取り位置にセットした原稿が固定されます。
2	原稿台	一枚ずつ読み取る場合、ここに原稿を置きます。フラットベッドとも呼ばれます。
3	ドキュメント押さえパッド	原稿をドキュメントベッドに押しつけます。 本装は黒色の原稿押さえパッドを装置しております。白色の原稿押さえは装置と同梱されていますので白色の原稿押さえが必要な場合は付け替えてご使用ください。
4	ADF（オートマチックドキュメントフィーダ）	原稿を、読み取り位置まで自動的に繰り込みます。
5	スタッカ	読み取られた原稿が積み重なります。
6	電源スイッチ	電源を投入／切断するために使用します。
7	操作パネル	スキャナを操作するために使用します。LCDIにはスキャナの状態が表示されます。
8	ADF給紙シュート	複数枚の原稿を読み取る場合に使用します。原稿をADFに落とし込みます。
9	ADFレバー	ADF内で紙詰まりが起きた場合、原稿を取り除くために開けます。
10	電源インレット	ACの電源コンセントからの電源ケーブルを接続します。
11	インタフェースコネクタ	ホストシステムからのインタフェースケーブルを接続します。

■ 取り外し可能部品



操作パネル



① 表示LCD

業務選択、動作モードアイコン、装置メッセージなどの情報を表示する液晶表示パネルです。

② 片面/両面スイッチ

ADFユニットから自動給紙で原稿を読取る際、原稿を両面読取りするか、表面のみを読取るか指定するスイッチです。本スイッチの指定状態は、表示LCDの右上位置にアイコンで表示されます。



: 両面読取りモードであることを表します。



: 表面読取りモードであることを表します。

③ ファンクションスイッチ

本機では、このスイッチはファンクションスイッチと意味付けられています。

追加モードとは、本機が原稿イメージをマルチページTIFFファイル形式で送信する際に、ADF読取りとフラットベット読取りを交互に行ったり、ADFで数回に分けて読取ったイメージファイルを1ファイルとして送信するモードのことです。

④ 選択スイッチ

装置の各種設定、JOBの選択、一時的エラー発生時のリカバリ方法指定などを行うときに選択スイッチとして使います。

⑤ スタート／送信スイッチ

読取り／送信を開始したり、選択内容を決定するときに使用するスイッチです。

⑥ ストップ／リセットスイッチ

原稿読取りの中断、一時的エラーの解除、JOB表示をホームポジションへ戻したりするときに使用するスイッチです。

⑦ 電源ランプ

装置の電源が投入されている間、点灯しています。

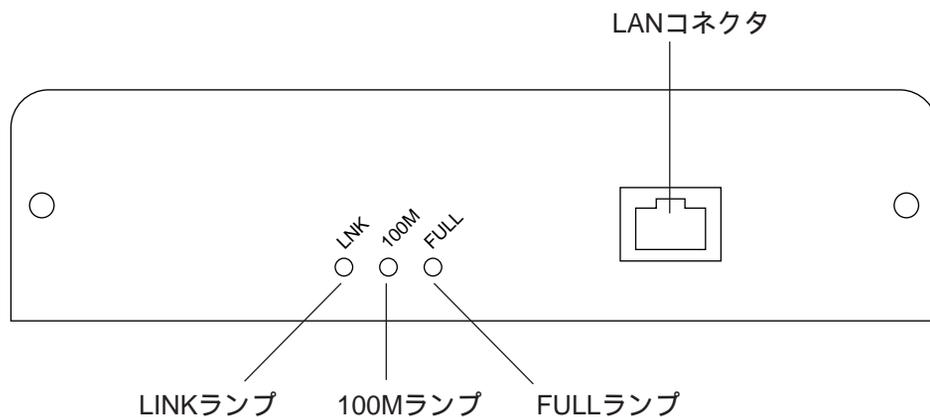
⑧ 送信中ランプ

読取りが開始された後、データ送信が完了するまでの間点滅しています。本ランプの点滅中は、処理が完了していない状態を表します。

⑨ チェックランプ

装置に何らかのトラブルが発生していることを表します。本ランプが点滅または点灯しているときはLCDに表示されているメッセージからのトラブルシューティングまたはリカバリメッセージにしたがってトラブルを解決してから業務を再開してください。メッセージからのトラブルシューティングは“ ”を参照してください。

I/Fパネル



① LINKランプ

装置がネットワークに接続され、ネットワークと通信が確立しているときに緑色で点灯します。

このランプは、ケーブルの接続状態や、ケーブルの接続相手（HUBなど）の電源状態などにより点灯状態が変わります。

このランプが緑色で点灯していても、データ送信先（サーバやクライアント）との通信が確立しているとは限りません。

② 100Mランプ

100 Mbpsで送信中の場合は緑色で点灯し、10 Mbpsで送信中の場合は消灯します。

③ FULLランプ

全二重通信の場合は緑色で点灯し、半二重通信の場合は消灯します。

④ LANコネクタ

LANケーブルを接続します。100BASE-TXと10BASE-Tを装置が自動的に識別し、切替えます。



注

RJ45タイプコネクタを使用したツイストペアケーブルを使用してください。

また、100Base-TXの通信速度で使用する場合は、カテゴリ5のツイストペアケーブルを使用する必要があります。

2

設置のしかたと接続のしかた

この章では、スキャナの設置のしかたと接続のしかたについて説明します。

事前のご注意

検査

輸送金具の付け替え

ケーブルの接続

スタッカの取り付け

事前のご注意

ここでは、スキャナを設置したり接続したりするときの安全上の注意事項について説明します。

■ 設置時の注意

スキャナを以下の場所や環境に設置しないでください。

設置場所のスペースなどについては、第5章「仕様」を参照してください。



火災・感電

装置を分解したり、改造したりしないでください。内部に高電圧部分があります。



感電

オプション機器の取付けや取外しを行う場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに、手順に従って行ってください。



設置・移転

スキャナのどの部分も机から突き出さないように置いてください。装置を動かしたり移転するときは、決して一人で行わないでください。また、装置は底部の水平な部分を保持してください。



転倒・落下

装置を不安定な場所に置かないでください。振動の少ない、装置が傾かないような平らな場所に置いてください。



火災・感電

直射日光の当たる所や暖房機の近く、湿気、ホコリの多い所には置かないでください。また、通気性、換気性の良い場所で使用してください。



一般的禁止

火災

装置の内部が高温になるため、通気口をふさがないでください。



一般的禁止

転倒・落下

装置の上に重いものを置いたり、装置の上で作業したりしないでください。



火災・感電・転倒・落下

機器を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなども外してください。作業は足元に十分注意して行ってください。



一般的禁止

誤動作

強い磁界やノイズ発生源から離して設置してください。また、静電気を避けてください。静電気を発生させますと、誤動作の原因になります。床材や設置する机には静電気を発生させない材質のものを選んでください。

■ 接続時の注意



火災・感電

この装置はアース接続を必要としています。電源ケーブルは必ず3ピンのコンセントに接続してください。アース接続ができない場合は、販売会社（または保守サービスセンタ）にご相談ください。



感電注意

火災・感電

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、たこ足配線をしないでください。



感電注意

感電

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。



火災

電源プラグの金属部、および金属部の取付け面にホコリが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。



一般的禁止

火災・感電

重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。



一般的禁止

火災・感電

電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。



注意



火災・故障

電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込んでください。



一般的禁止

火災・感電

電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグ部分を持ってコンセントから抜いてください。



感電注意

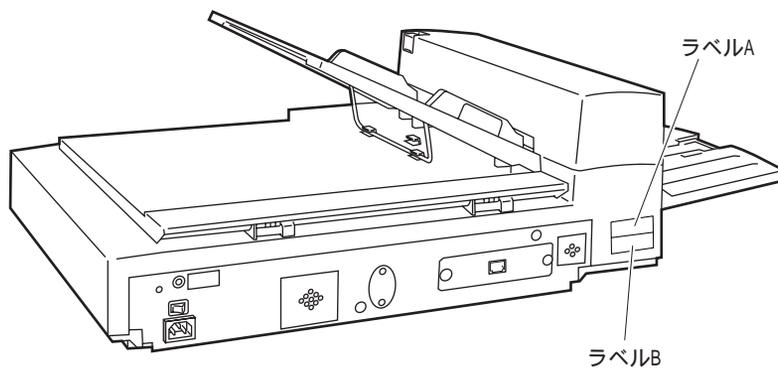
火災

複写機やシュレツダのような消費電力の大きい機器と同じコンセントから、電源をとらないでください。

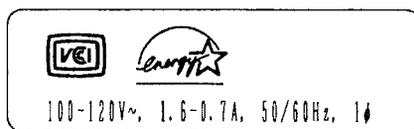
検査

ここでは、ラベルの確認のしかたを説明します。

二つのラベルの位置



ラベルA



ラベルB

MODEL	fi-4750N	Rev.	MODEL NAME									
PART NO.	CA02956-2385	Label										
SER. NO.	*****	*	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
DATE	*****		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	22Kg		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
FUJITSU LIMITED			MADE IN JAPAN									

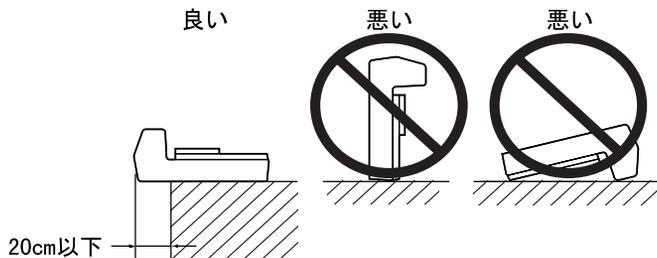
輸送金具の付け替え

スキャナが出荷中に壊れないように、キャリアユニットは輸送金具で固定されています。スキャナを設置場所に置いた後に、下記の説明に従って輸送金具を付け替えてください。

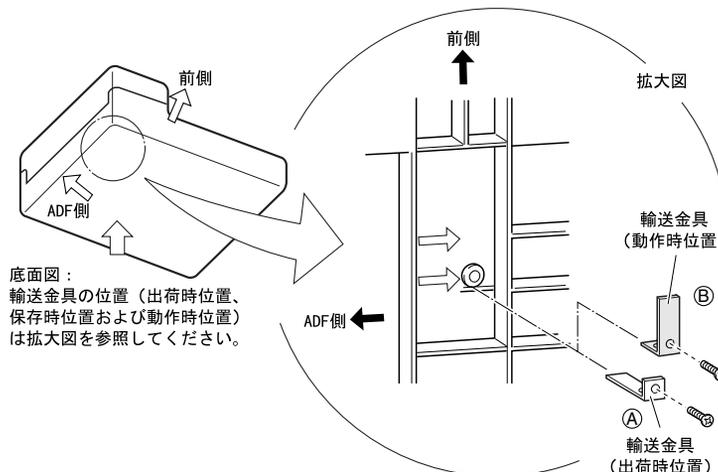
- (1) スキャナを机の上の端の方に置きます。その時スキャナのADF側が机から張り出すように置きます。スキャナを逆さまに置いたり横向きに立てたりしないでください。

⚠ 注意

スキャナを机から20cm以上張り出さないでください。



- (2) 位置Aに固定されている輸送金具を外してください。次に、輸送金具を位置Bに固定してください。



⚠ 注意

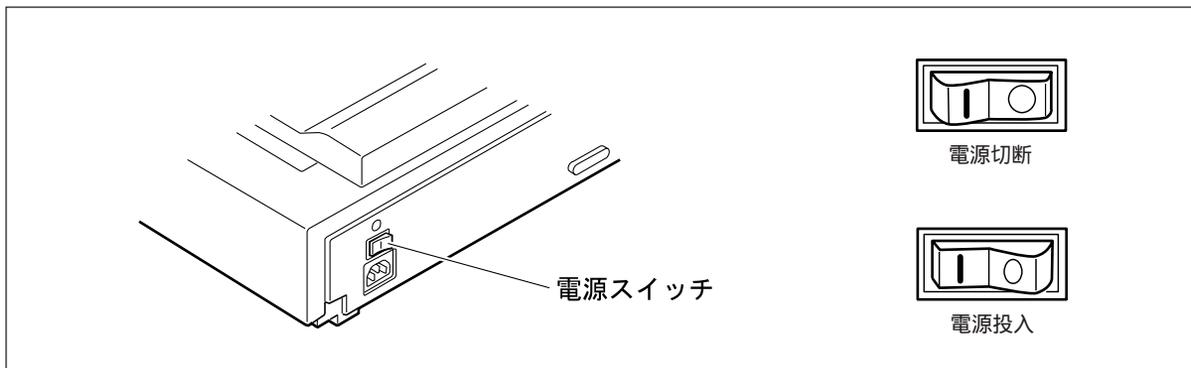
スキャナを移動したり保存する前に、輸送金具を必ず出荷時位置（位置A）に付け替えてください。輸送金具を固定する前に、キャリアユニットがホームポジションに戻っていることを必ず確認してください。

ケーブルの接続

ここでは、ケーブルの接続のしかたについて説明します。
ケーブルは以下のように接続します。

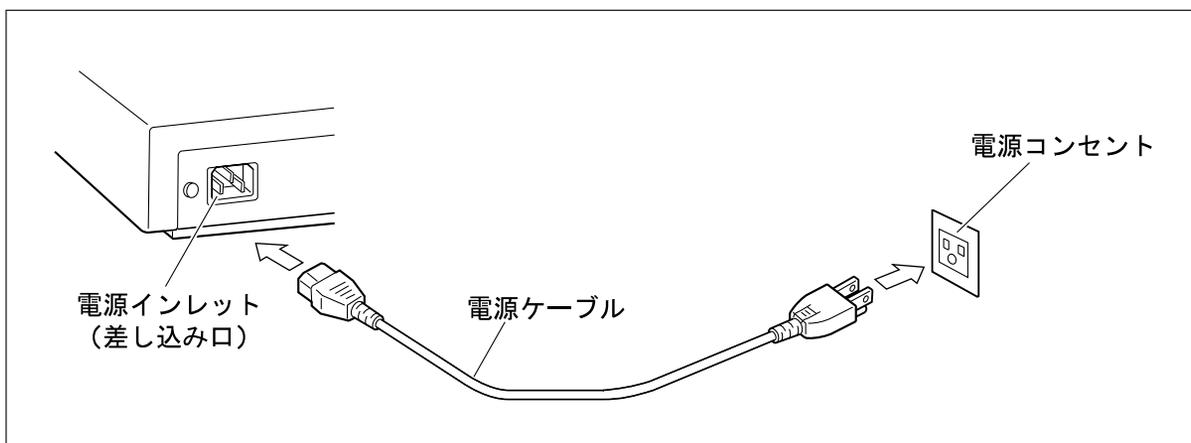
■ 電源スイッチを切る

電源スイッチの「○」側を押して、電源を切断します。



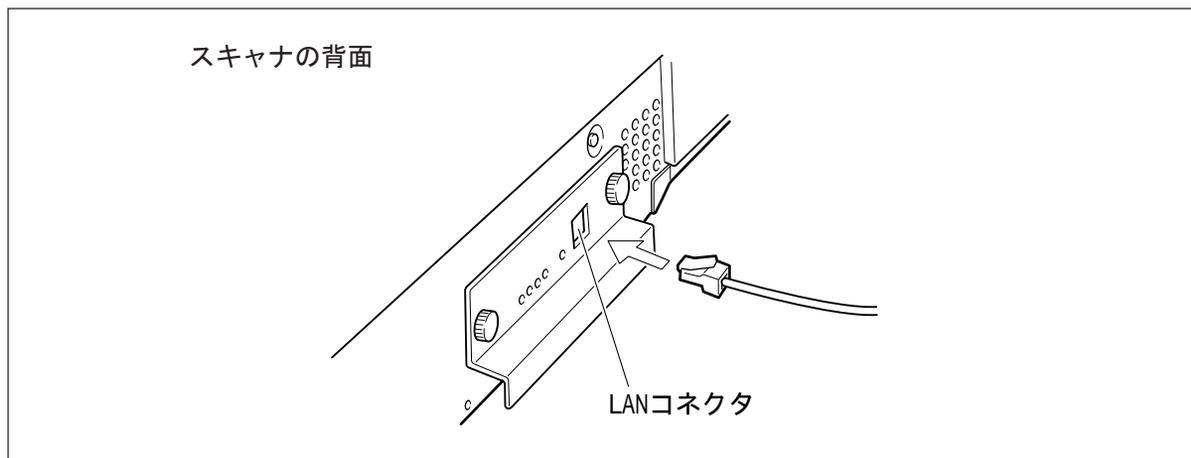
■ 電源ケーブルを接続する

電源ケーブルを装置の電源インレット（差し込み口）と電源コンセントに接続します。



■ インタフェースケーブルを接続する

LANケーブルを接続し、固定します。他端をホストシステムに接続します。

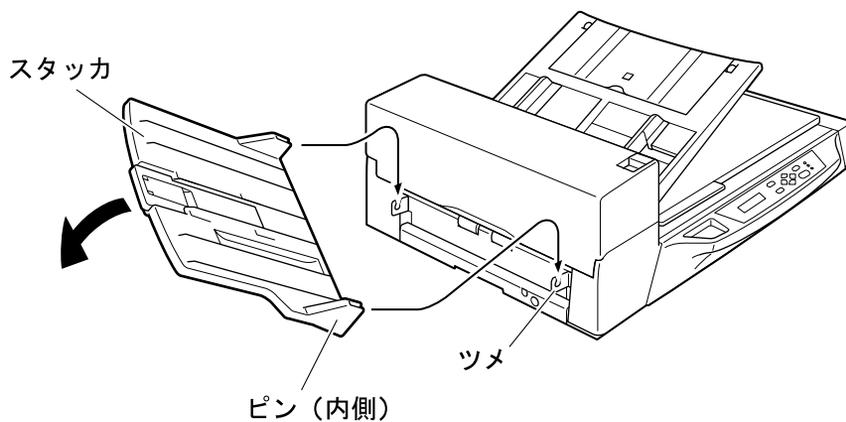


スタッカの取り付け

スタッカは以下の手順で取り付けます。

(1) スタッカの取り付け

スタッカの両端のピンをスキヤナのツメに懸けてください。



3

操作のしかた

この章では、電源の投入のしかた、スキャナの低電力モードからの立ち上げかた、手挿入モードの設定のしかた、ADFへの原稿のセットのしかた、フラットベッドへの原稿のセットのしかた、フラットベッドより大きな原稿のセットのしかたおよび厚い本のページの読み取りかたについて説明します。

日常の保守については、「清掃と保守のガイド」を参照してください。

事前のご注意

電源の投入

スキャナの低電力モードからの起動

ADFへの原稿のセット

フラットベッドへの原稿のセット

厚い本の読み取り

フラットベッドより大きな原稿のセット

事前のご注意

ここでは、装置を操作するときの安全上の注意事項について説明します。

スキャナを操作するときには以下のことがらに注意してください。



火災・感電

万一、機器から発熱や煙、異臭や音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに機器本体の電源スイッチを切り、その後、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

煙が消えるのを確認して、販売会社（または保守サービスセンタ）にご連絡ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。



一般的禁止

火災・感電

開口部（通風口など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。



一般的禁止

火災・感電

機器を落としたり、カバーなどを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、販売会社（または保守サービスセンタ）にご連絡ください。



一般的禁止

火災・故障

コーヒーなどの液体やクリップなどの金属片が装置内部に入らないように気をつけてください。



一般的禁止

火災・感電

本体に水をかけたり、濡らしたりしないでください。



一般的禁止

火災・感電

異物（水、金属片、液体など）が機器の内部に入った場合は、ただちに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、販売会社（または保守サービスセンタ）にご連絡ください。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

巻き込み

歯車やローラなどの可動部に衣服の袖やネクタイ、髪を巻き込まれないようにしてください。



回転物注意

火災・感電

長期間機器を使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



破損

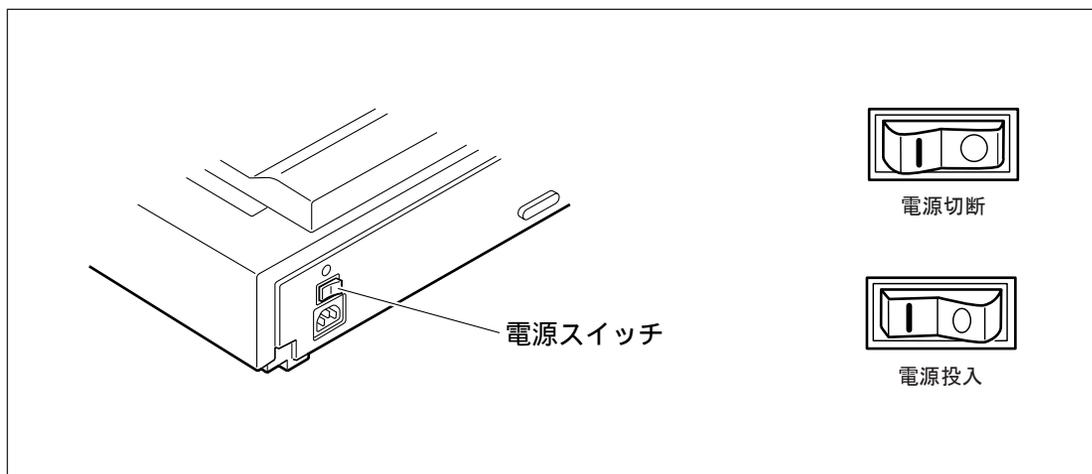
近くで雷が発生したときは、電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。入れたままにしておくと、機器が破損することがあります。



電源の投入

ここでは、電源の投入のしかたについて説明します。

電源スイッチの「I」側を押します。電源が投入され、操作パネルの緑色の電源ランプが点灯します。

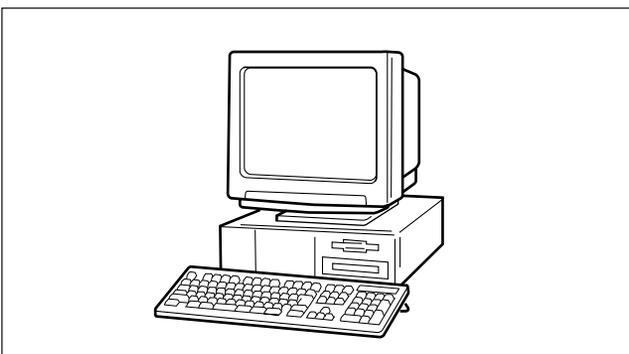
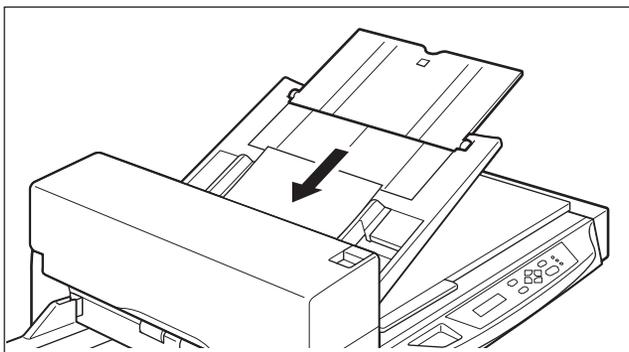
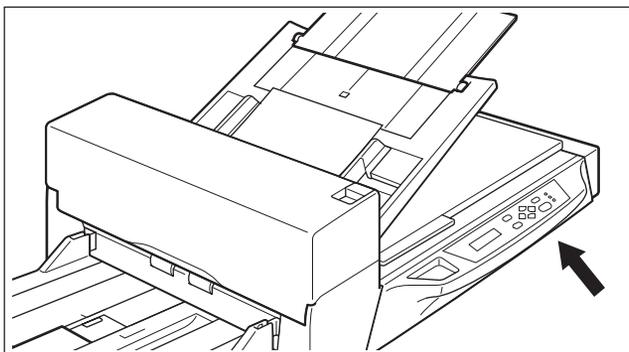


スキャナの低電力モードからの起動

ここでは、低電力モードからスキャナを起動する方法について説明します。

スキャナを起動するには、

- ・ ボタンのどれかを押すか、
- ・ ADFに用紙をセットしてください。

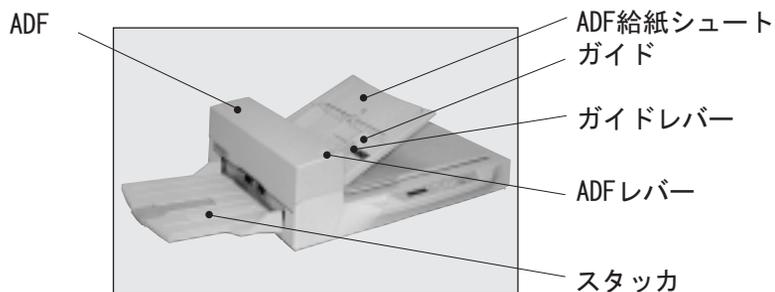


ADFへの原稿のセット



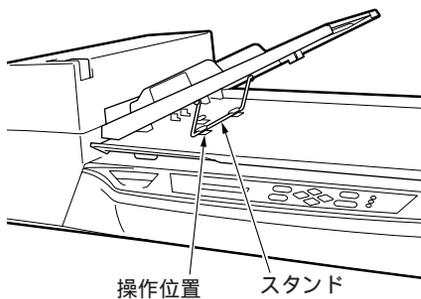
注

操作の前に、2-6ページに従って、輸送金具の位置を必ず変更してください。

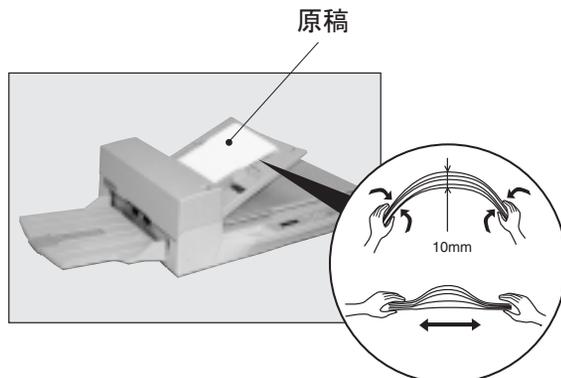


1

ADFの給紙シュートを持ち上げ、スタンドを操作位置に置きます。



2 ADFの給紙シュートに原稿の束をセットする前に、用紙をさばきます。

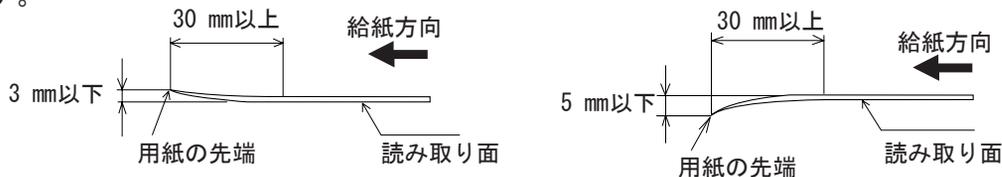


注

- クリップおよびホチキスの針は取り除いてください。ホチキスの穴は平らにしてください。



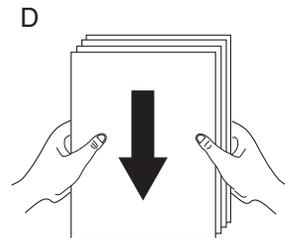
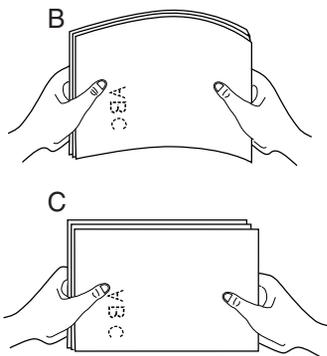
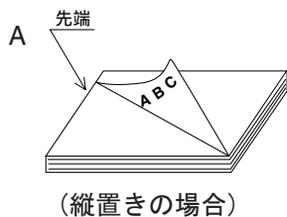
- 次の原稿の読み取りには、フラットベッドを使用してください。
- クリップまたはホチキスの針が付いた用紙
- インクが乾いていない用紙
- 紙厚が一定していない用紙（封筒など）
- しわがよっていたり、カールしている用紙
- 折れたり、裂けたりしている用紙
- トレーシングペーパー
- コート紙
- カーボン紙
- A8（縦）サイズより小さいか、A3サイズより幅の広い用紙
- 紙以外のもの：布、金属箔、OHPフィルム
- 感光紙
- 端にミシン目や穴あけのある用紙
- 四角形でない用紙
- 非常に薄い用紙
- 先端がカールしている原稿をADFにセットする時は、カールが下記の量を超えないようにしてください。



- 斜行を防ぐために、同一処理中には幅異なる原稿をフィードしないでください。

3 用紙の準備

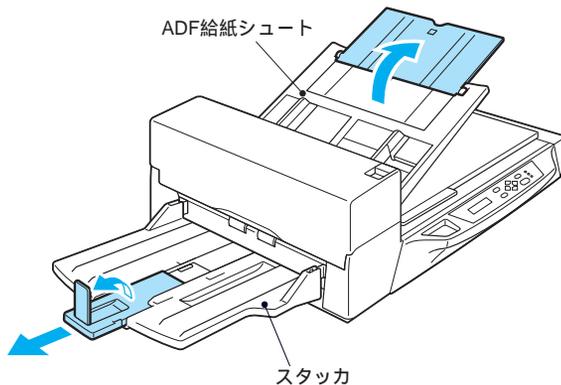
- 図Aのように、原稿の表を下にし、先端を左側にして置きます。（横置きモードでは長い側、縦置きモードでは短い側が先端です。）
- 両手で両端を持ちながら、原稿を持ち上げます。
- 図Bのように、原稿を左手でしっかり持ってたわませます。
- 図Cのように、原稿を右手でしっかりつかんで左手の握り方をゆるめ、まっすぐにします。
- 図Dのように、原稿の束のフィード側の端をそろえます。



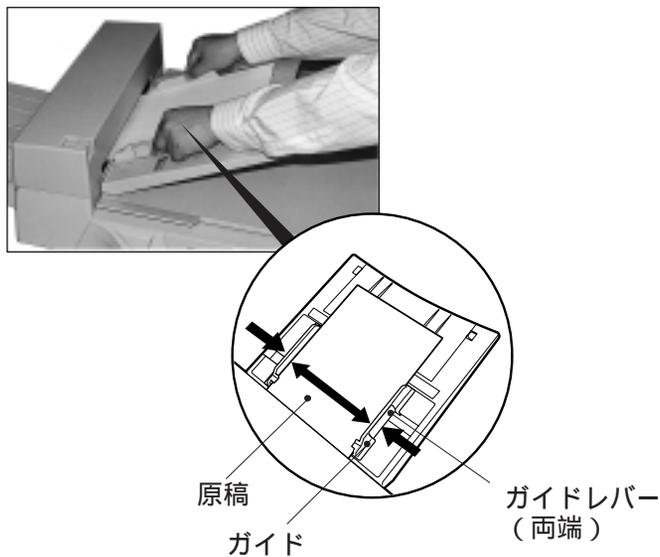
注

ダブルフィードまたはピックアップが起きる場合は、原稿の分量を減らしてください。

4 スタッカの延長部分を用紙サイズに合わせて調整し、プレートを裏返します。

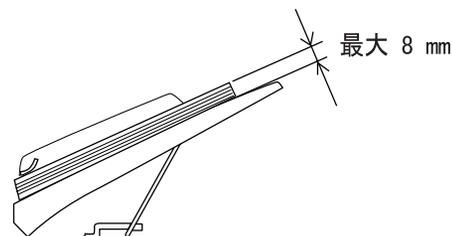


- 5** 原稿の両端とガイドの間に少し隙間ができるように、ガイドをセットします。ADFの給紙シュートに原稿の表を下にして載せ、ガイドを原稿に合わせます。

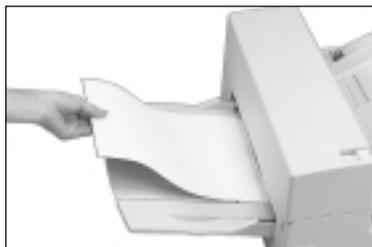


 注

- ガイドを動かすには、ガイドレバーを強く握ってください。
- 8 mm以上の厚さがある原稿の束を載せないでください。
- ガイドは、原稿の側面に触れる程度にセットしてください。



- 6** スタートスイッチを押すと原稿が読み取られ、イメージデータがサーバに送られ、原稿が読み取られた後、スキャンされた原稿はスタッカに排紙され、取り出せます。

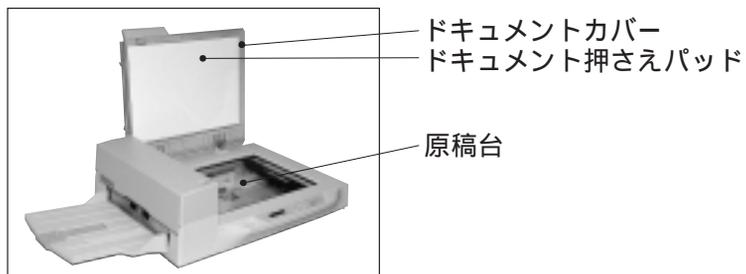




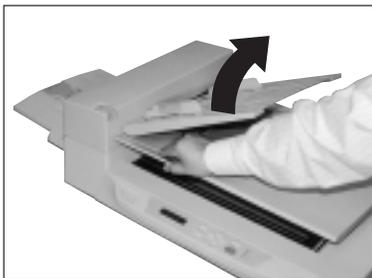
注意

読み取り動作中、光源を直接見ないでください。

フラットベッドへの原稿のセット



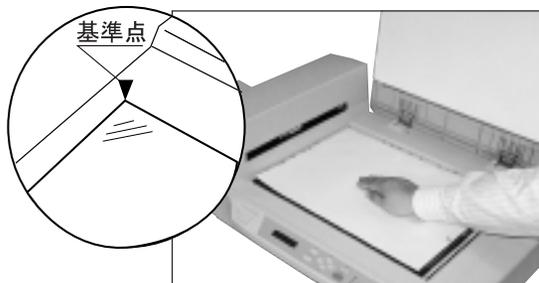
- 1 ドキュメントカバーを開きます。



- 2 原稿の表を下にして置き、左上のかどを基準点に合わせます。

- 3 ドキュメントカバーをゆっくり閉じます。

- 4 スタートスイッチを押し、原稿を読み取らせてます。

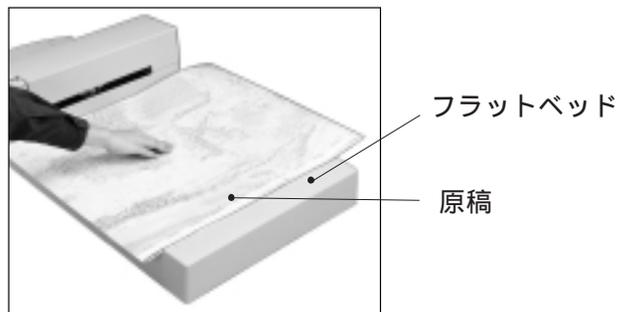




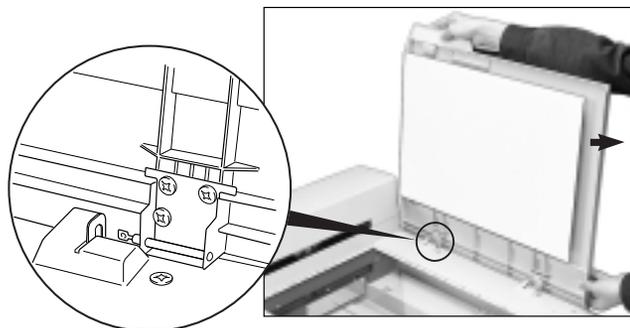
注意

読み取り動作中、光源を直接見ないでください。

フラットベッドより大きい原稿のセット



- 1** ドキュメントカバーを約90度の角度まで開き、カバーを矢印の方向にすべらせて取り外します。



- 2** フラットベッドに、原稿の表を下にして置きます。スタートスイッチを押し、原稿を読み取らせてます。
- 3** 読み取り動作の後、原稿を取り出し、ドキュメントカバーを再び取り付けて静かに閉じます。

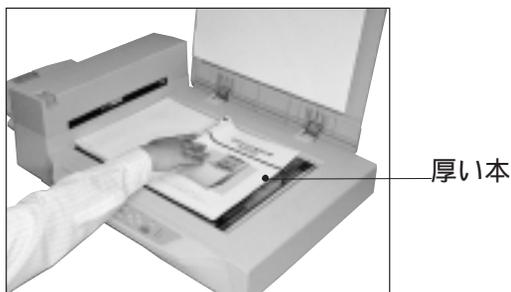




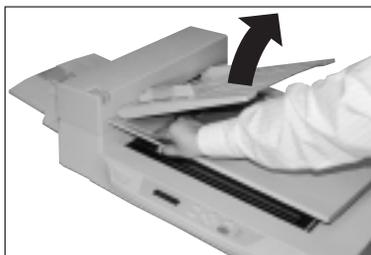
注意

読み取り動作中、光源を直接見ないでください。

厚い本の読み取り

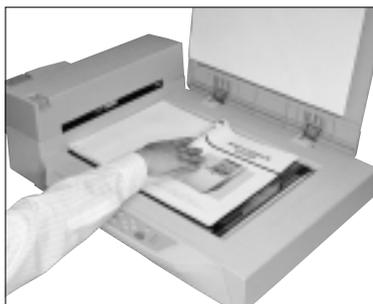


- 1** ドキュメントカバーを開きます。



- 2** フラットベッドの上に、本の表を下にして置きます。

- 3** スタートスイッチを押し、原稿を読み取らせます。読み取りの間、カバーを開けたままにしておきます。



注

読み取り動作中は本を動かさないでください。

4

ADF用原稿の指定

この章では、ADFが正しく動作するのに必要な原稿のサイズと原稿の紙質について説明します。

原稿のサイズ

原稿の紙質

ADFにセットできる原稿の枚数

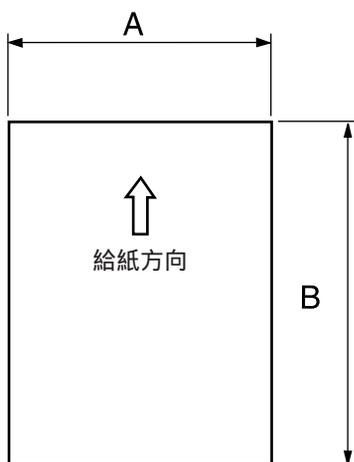
穴をあけてはいけない領域

背景色の領域の制限

ダブルフィードの検出条件

原稿のサイズ

以下の図は、スキャナのADFで読み取り可能な原稿のサイズを示します。



スキャナ	最大		最小	
	A	B	A	B
fi-4750N	297	432	53	74
	A3/ダブルレター		A8 (縦置き)	

(単位 : mm)

原稿の紙質

この節では、このスキャナに使用できる原稿の種類と紙厚、および事前の注意について説明します。

■ 原稿の種類

原稿として推奨される用紙の種類は以下のとおりです。

- ・ 上質紙
- ・ 普通紙（例、XEROX4024用の指定用紙）

上記以外の種類の用紙を使用する時には、読み取り操作を実行する前に、ADFでの給紙がうまくゆくか少量の用紙で確認してください。

フラットベッドではどんな種類の用紙でも使えます。ただし、背景色の使い方については本章の後の方で説明する「背景色の領域の制限」を満足する必要があります。

■ 原稿の紙厚

紙厚は連量と呼ばれる重さで表します。使用可能な連量は以下のとおりです。

- ・ 45～110 kg、A8サイズは110 kgのみ（四六判連量）



注

四六判連量とは、788 mm×1091 mm（四六判）の用紙1000枚の重量です。

■ 事前の注意



警告

原稿がADFで損傷を受ける可能性はほとんどありませんが、念のため重要な原稿はADFを決して使わないでください。代わりにフラットベッドを使って一枚ずつ読み取ってください。

以下の原稿はADFではうまく読み取れない場合があります。予期せぬエラーを防ぐためには、予備の原稿での給紙テストが必要な場合もあります。原稿がADF内で頻繁に滑ったり、詰まったり（ペーパージャムエラー）またはダブルフィードを起こしたりする場合はフラットベッドを使って原稿を読み取ってください。

- ・ クリップまたはホチキスの針が付いた用紙
- ・ インクが乾いていない用紙
- ・ 紙厚が一定していない用紙（封筒など）
- ・ しわがよっていたり、カールしている用紙（次ページの注意を参照）
- ・ 折れたり、裂けたりしている用紙
- ・ トレーシングペーパー
- ・ コート紙（カラー印刷に使われるもの）
- ・ カーボン紙

- ・ A8(縦置き)サイズより小さいか、A3サイズやダブルレターサイズより大きい用紙
- ・ 紙以外のもの：布、金属箔、OHPフィルム
- ・ 感光紙
- ・ 端に切り込みのある用紙
- ・ 四角形でない用紙
- ・ 非常に薄い用紙



注

半透明の原稿を読み取る時は、濃度をライト側に設定してください。



注

ローラが汚れないようにするために、鉛筆で塗りつぶした原稿の読み取りは避けてください。やむをえずこのような原稿を読み取る場合は、できる限り頻繁に清掃してください。少なくとも用紙1000枚毎に1回清掃することを推奨します。



注

ノンカーボン紙はパッドやピックローラを損なうような化学物質を含んでいますので、下記のことにご注意してください。

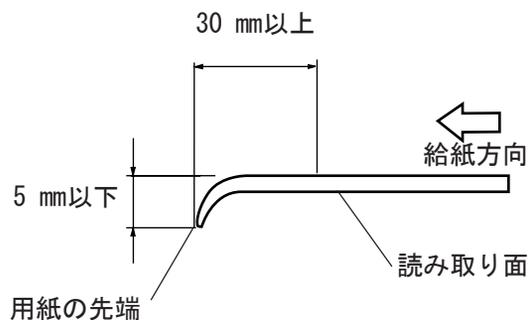
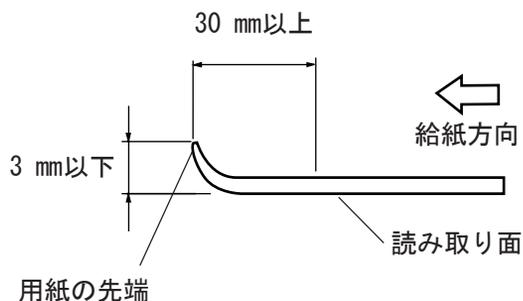
清掃： もしもピックミスがしばしば起きるようでしたら、「清掃と保守のガイド」を参照してパッドとピックローラを清掃してください。

部品の交換： パッドとピックローラの寿命は普通紙の原稿を読み取る場合に比べて短くなるかもしれません。



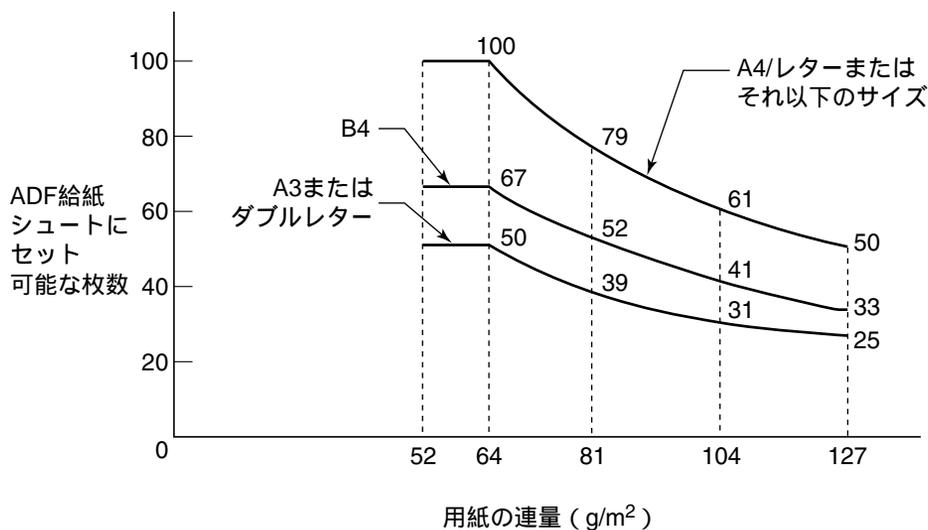
注

ADFを使う場合、すべての原稿は先端が平らでなければなりません。用紙先端のカーブは以下の数値を満足するようにしてください。



ADFにセットできる原稿の枚数

ADF給紙シュートにセットできる原稿の枚数は用紙のサイズと連量で決まります。下記のグラフを参照してください。

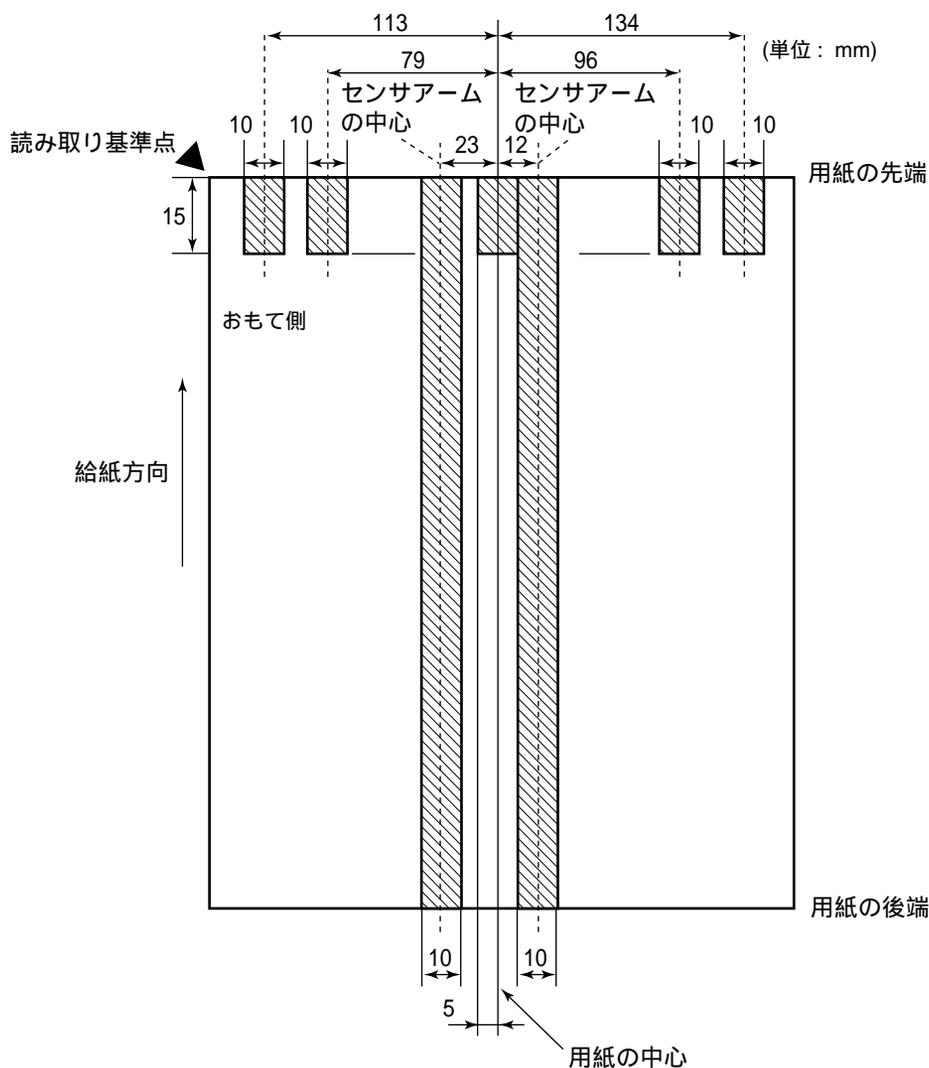


連量変換表

国	連量の単位	変換表						
		45	55	64.6	77.5	90	109.8	135
日本	kg	45	55	64.6	77.5	90	109.8	135
USA	lb	13.9	17	20	24	27.9	34	41.8
欧州	g/m²	52	64	75	90	104	127	157

穴を開けてはいけない領域

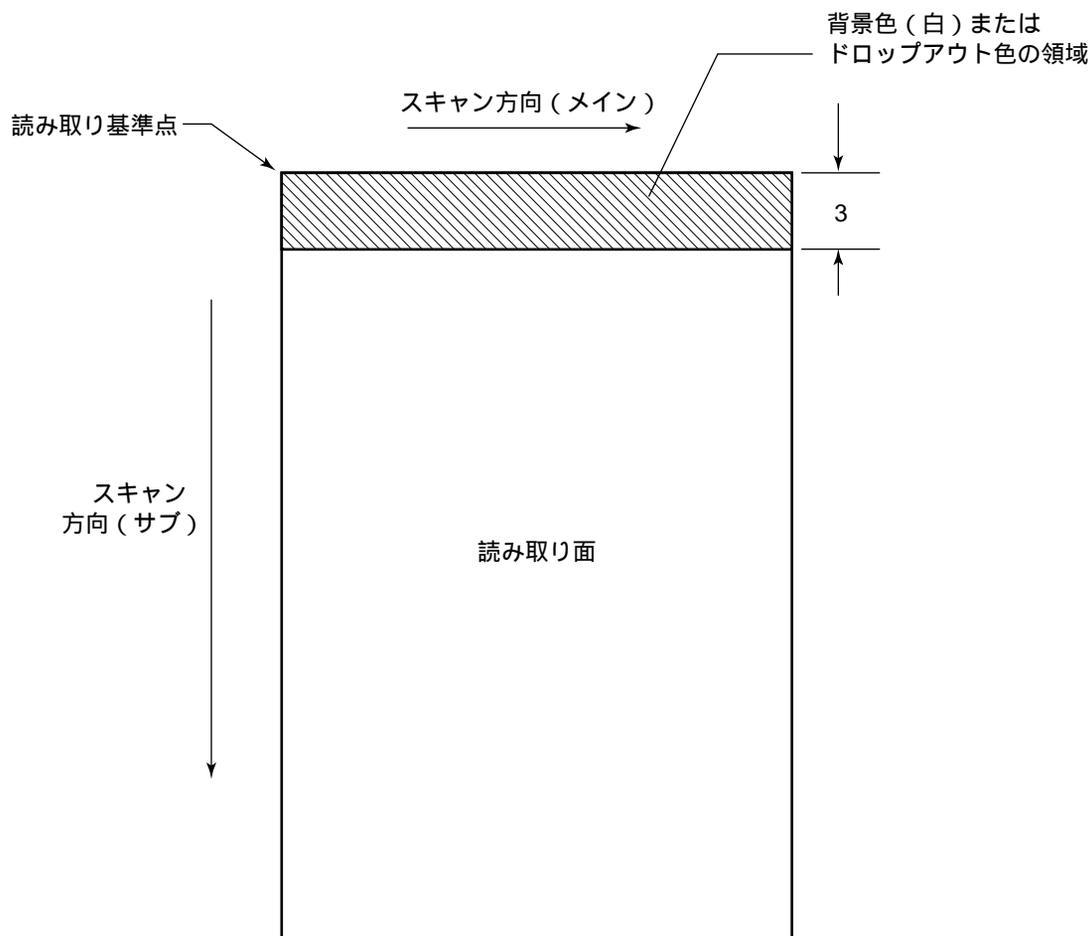
下図の斜線の領域に穴があるとエラーの原因になることがあります。このような原稿を読まなければいけない時は、フラットベッドを使ってください。



穴を開けてはいけない領域

背景色の領域の制限

下図の斜線の領域の色は背景色（白）またはドロップアウトカラーでなければなりません。そうでないならば、白レベルを写真モードに設定して読み取ってください。



(単位：mm)

背景色の領域

ダブルフィードの検出条件

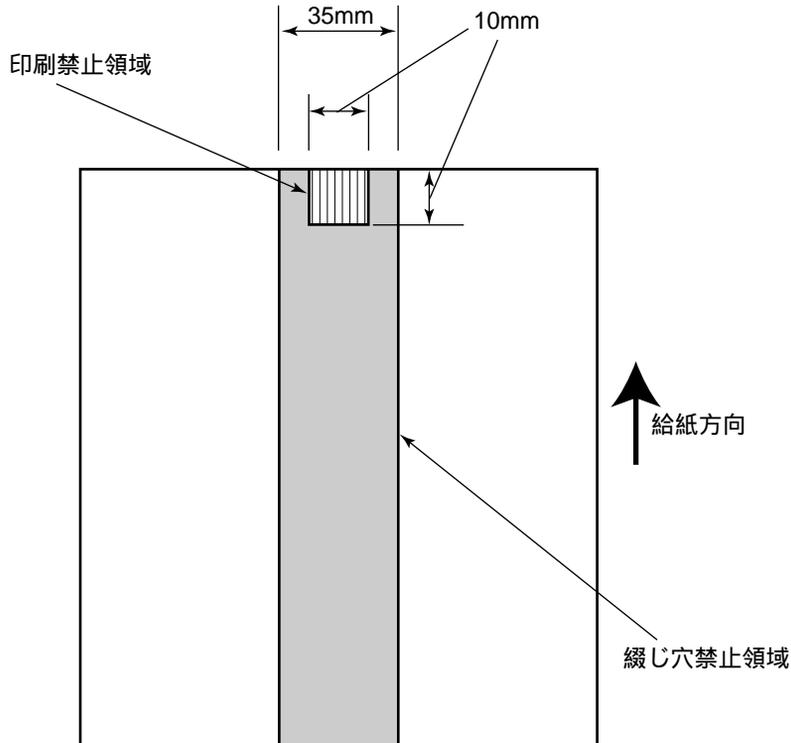
ダブルフィードの検出には用紙の厚さまたは用紙の厚さと長さの両方をチェックします。検出を正しく行うには以下の条件が必要です。

- 1 用紙の厚さ：0.065 mm ~ 0.15 mm
- 2 用紙の長さのばらつき：1%またはそれ以下
- 3 用紙先端中央部(10 mm x 10 mm)には、黒い印刷部分が少しでもあってはならない。
- 4 用紙の中心線を挟む35 mmの領域には孔あけをしてはいけない。
- 5 印字率：12%またはそれ以下
- 6 背景色の領域を透過する光の量は、ばらつきが10%より小さくなくてはならない。



注

用紙や用紙の条件によってはダブルフィードの検出率が落ちる場合があります。



5

スキャナの仕様

この章では、スキャナの設置仕様と外形寸法について説明します。

装置基本仕様

設置仕様

外形寸法

装置基本仕様

NO.	項目		仕様	備考
1	操作方法		ADF（両面）、フラットベッド	
2	イメージセンサ		CCDx2	オモテ/ウラ
3	光源		不活性ガス（キセノン）ランプx2	縁
4	原稿サイズ	最小	A8（縦置き）	110kg紙
		最大	A3/ダブルレター	
5	原稿の紙厚		45 kg~110 kg	(*1)
6	光学的解像度		400 dpi	
7	出力側解像度	バイナリ	50~400	
		グレースケール	50~400	
8	グレースケールレベル（内部）		1024レベル（10ビット）	
9	スキャン速度 （エンジン値） (*2)	片面読み取り	50 ppm、200 dpi、A4、縦置き	
			35 ppm、300 dpi、A4、縦置き	
			45 ppm、300 dpi、A4、横置き	
		両面読み取り	90 ipm、200 dpi、A4、縦置き	
			60 ipm、300 dpi、A4、縦置き	
			80 ipm、300 dpi、A4、横置き	
10	中間調パターン処理		ディザ/誤差拡散	
11	ADF給紙シュートの容量		100枚（A4、64 g/m ² （17 lb））	(*3)
12	圧縮機能		MH	
13	インターフェース		LAN	RJ45タイプ コネクタ用

*1 詳細は第4章に記述されています。

*2 実際のスキャン速度はホストコンピュータ側の環境条件で変わります。

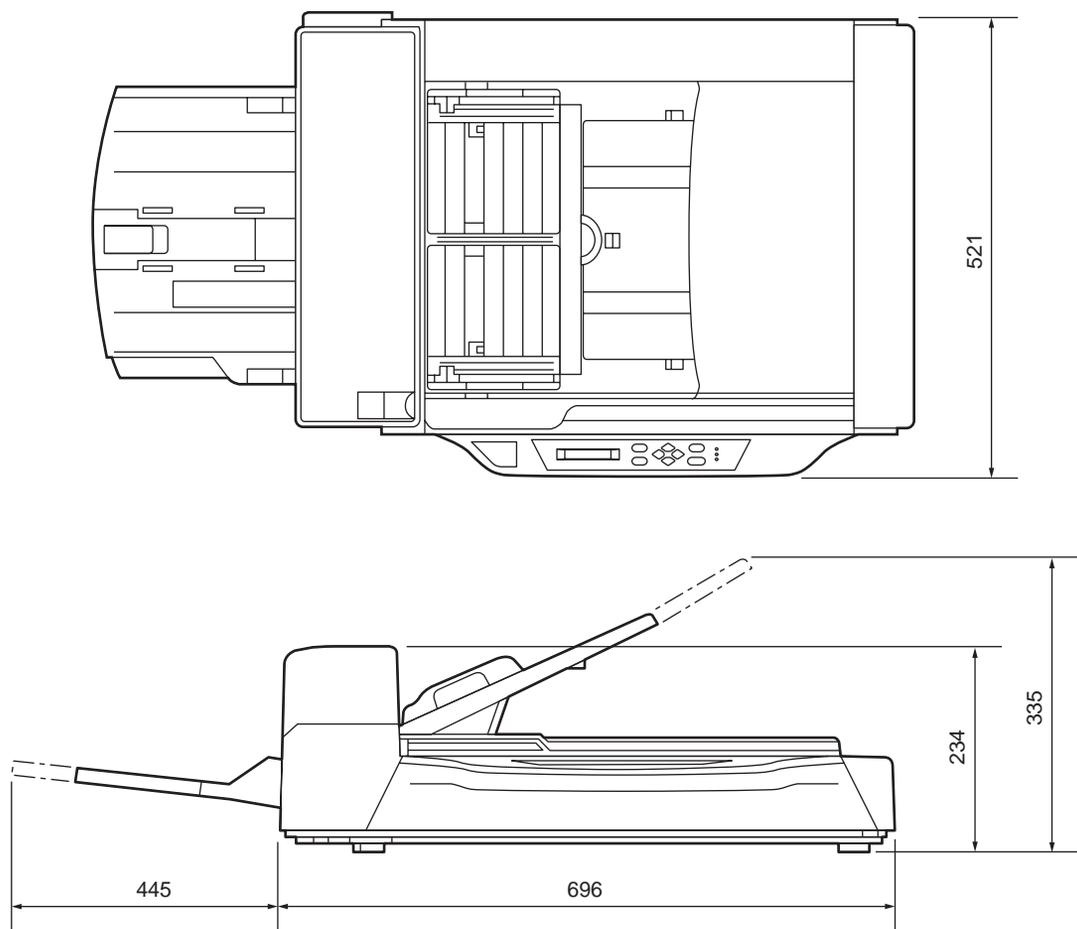
*3 最大枚数は用紙の厚さによって変わります。第4章を参照してください。

設置仕様

本装置の設置仕様は次のとおりです。

項目		仕様		
外形寸法 (mm)		幅	奥行き	高さ
		696	521	234
重さ (kg)		22		
入力電源	電圧	100~127VAC±10%		
	位相	単相		
	周波数	50/60±3Hz		
電力消費		160 VA以下		
環境条件	装置の状態	動作環境	保存環境	
	温度	5~35℃	-20~60℃	
	湿度	20~80%	8~95%	
熱容量		110 Kcal/H		

外形寸法



(単位 : mm)

6

消耗品

この章では、スキャナの消耗品について説明します。

消耗品

消耗品（サプライ品）

本スキャナの消耗品は、お客様自身で交換していただきます。以下の表に、スキャナに使用する消耗品とその寿命を示します。適当数の消耗品をストックし、定期的に変換してください。交換は、以下の表に示す寿命のガイドラインおよびCD-ROM内の「清掃と保守のガイド」に従ってください。これらを推奨通りに交換しなかった場合、スキャナは適正に機能しないことがあります。部品の交換時期は、読み取った原稿の総枚数を消耗品カウンタで確認して判断してください。

名称	商品番号	寿命（ガイドライン）
パッドASY	0961134	10万枚または1年まで
ピックアップローラ	0961135	20万枚または1年まで (2個のローラ共に)



注

消耗品の交換については、「清掃と保守のガイド」を参照してください。



警告

ある特定の用紙を使用の場合または使用の条件によっては、消耗品の寿命が短くなる場合があります。

索引

あ行

アラーム
安全上のご注意 iv
一時的エラー 1-6
インタフェースコネクタ 1-2, 1-3
ADF 1-2, 1-3
給紙シュート 1-2
モード 1-5
レバー 1-2, 1-3
Exitボタン 1-7
LED 1-7
LCD 1-6
Enterボタン 1-6
オペレータガイド 1-1
オプションスロット 1-2, 1-3

か行

環境条件 5-2
給紙方向 4-1
ケーブルの接続 2-7
原稿台 1-2, 1-3
原稿の紙厚 4-2
検査（構成部品） 2-4
構成部品のチェック 1-1

さ行

事前のご注意 2-3, 4-2
重量 5-2
仕様 5-1, 5-2
消費電力 5-2
消耗品 6-1
消耗品カウンタ 6-1
スキャナ 1-1
スタッカ 1-2, 2-9
Startボタン 1-6, 1-7
Stopボタン 1-6, 1-7
寸法 5-2, 5-3

接続

インタフェースケーブル 2-8
電源ケーブル 2-7
設置仕様 5-2
操作ステータス 1-7
操作パネル 1-2, 1-5

た行

ダブルフィード
エラー 1-6
中間調処理 6-6
手挿入モード 1-6, 3-5
電源
インレット 1-2, 1-3
ケーブル 1-1, 2-7
スイッチ 2-7, 3-3
切断 2-7
投入 3-3
ドキュメント
押さえパッド 1-2, 1-3
紙質 4-2
種類 3-7, 4-2
寸法 4-1
取り外し可能部品 1-4

な行

入力電源 5-2
Nextボタン 1-7
濃度 3-5, 3-6

は行

配列（操作パネル） 1-5
はじめに v
パッドASY 6-1
発熱量 5-2
ピック
ローラ 1-4, 6-1
表示マーク vi

普通紙 4-2
Previousボタン 1-5
ボタン/LED機能 1-5

や行

輸送金具 2-6
ユニット 1-2
ユニットと取り外し可能部品 1-2
読み取り
面 4-6
モード 4-6
読取枚数カウンタ 1-8

ら行

ラベル
A 2-4
B 2-5
両面
ウラ面読み取りモード 4-6
オモテ面読み取りモード 4-6
読み取りモード 4-6

その他

◇ (左カーソル) ボタン 1-5
◇ (右カーソル) ボタン 1-5
◇ (Next) ボタン 1-5
◇ (Previous) ボタン 1-5
(Send To) ボタン 1-5
(Start) ボタン 1-5
(Stop) ボタン 1-5
(Enter) ボタン 1-5
(Exit) ボタン 1-5

FUJITSU



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。